

## 大阪情報コンピュータ専門学校 学校関係者評価報告書

学校関係者評価は、文部科学省が策定した「専修学校における学校評価ガイドライン」を踏まえた評価項目に即し実施した「平成 30 年度自己評価報告書」に基づき、8 名の評価委員に評価を頂いた。

事前に「平成 30 年度自己評価報告書」「学校情報」を配布した上、学校関係者評価委員会では、評価項目に沿って、ご意見を頂戴した。

1. 日 時：2019年7月4日（木） 15：00～17：00
2. 場 所：大阪情報コンピュータ専門学校 6階D教室
3. 参加者：8名

### (1) 学校の専門分野における業界関係者

谷口 富男 Pro-X 株式会社 代表取締役

(情報処理学科、IT テクニカル学科、情報システム開発学科、総合情報メディア学科)

今西 敏彦 株式会社ウイズ・ソフトウェア 代表取締役

(情報処理学科、IT テクニカル学科、情報システム開発学科、総合情報メディア学科)

長尾 和昭 株式会社 COMET DESIGN WORKS 代表取締役

(メディアデザイン学、ゲーム学科、メディアクリエイト学科、総合情報メディア学科)

布施 利洋 株式会社カガミ 代表取締役

(メディアデザイン学科、メディアクリエイト学科、総合情報メディア学科)

広末 貢一郎 株式会社エアーポートカーゴサービス

(IT ビジネス学科)

### (2) 保護者

中村 恵子

### (3) 卒業生 (ナック株式会社 代表取締役)

野口 幸雄

### (4) 高等学校等、接続校の教員等

東 龍太郎 科学技術学園高校 分室長

## 4. 委員会議事内容

項目	評価・意見
(1) 教育理念・目標	・IT 人材は、Society5.0 に向けた社会の発展のために今まで以上に重要な役割を担っていくことになる。未来の新しい産業社会から教育目標の概念として設定した「豊かな人間性を持ち、自ら学んで身に付けたスキルの役割を自覚し、中堅技術者・職業人として自信を持った人材を輩出する」ために教育内容を充実させていくことが一層、重要であるとの認識に共感する。

(2) 学校運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特に問題はない</li> </ul>
(3) 教育活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「情報デザイン教育」を新しい教育の考え方として提示されて以降、タスクベースドカリキュラムとして教育内容を深めておられる。技術だけを教えるのではなく、仕事や業務内容から想定したカリキュラムとして具体化していくのは良い。</li> <li>・上記のような教育内容を通じて、社会のこと、世の中のしくみを教えることにつながっていくことも重要である。この結びつきを意識して教えるためには教員力量も必要であろう。</li> <li>・新入社員は、会社でどういった仕事と業務があるのかを十分に理解できていない。これが理解できていないと現実とのギャップが生じて早期退社となる。特に IT 分野は業務範囲が広い。開発、運用、インフラ系のハード設計、ネットワーク等、どの業種・職種をメインにするのか。また就業形態も様々。出向や派遣等。どこを指定しているのかを明確にしておいてほしい。</li> <li>・資格取得については引き続き強化し、全員になんらかの資格を取得させることを継続してほしい。例えば基本情報技術者試験 (FE) は資格そのものが実務経験にすぐに役立つわけではないが、FE に合格する学習ができる学生として評価できる。</li> <li>・業界自体もイノベーションしていかないといけない。古い体質のままだとイノベーションを求める若者はやめていく。年配の我々にも古いと提案できる自信のある学生を養成してほしい。</li> <li>・毎年 2 月に開催している学生作品展 (メディアフロンティア) で様々な分野の学生作品を拝見しているが、作品の企画・提案、レベルや出来栄が良くなっていると感じる。これを契機に、産学連携企画などにも発展しているので、より多くの企業来校を促していけば良いと考える。</li> </ul>
(4) 学修成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・IT 業界の人材不足等も背景として当面は企業の採用ニーズは高いだろう。しかし、米中貿易摩擦の影響拡大やオリンピック後の景気動向には注視しておく必要がある。IT 企業の採用動向に影響を及ぼす可能性があることも念頭に置いておく必要があるだろう。</li> <li>・企業と連携した授業で技術指導や作品評価に関わっており、年々、スキルが向上していると感じる。一企業の経営者の視点からすると優れた作品を制作した学生にインターンシップ等を要請し、そこから実際の採用につなげていきたいと考えている。</li> </ul>
(5) 学生支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者から、息子は学校で様々なことにチャレンジしているようだ。彼はもともと積極的にトライするタイプではないが、学校側から「やってみたらどう？」等の誘いを頂いているようで、私自身もやってみなさいと家庭で勧めて</li> </ul>

	<p>いる。検定試験、オープンキャンパススタッフ、クラブのリーダー等に加え、今年度はカナダの語学研修にも参加することになった。活動範囲を広げ、経験蓄積をすることで人間的にも成長できる時期である。これからもどんどん学生の特性を踏まえて積極的な活動を提案してほしい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生間の SNS でのやりとりからトラブルや行き違い等が生じている。高校でもこれらが理由で生徒が登校しにくくなる場合もあつたりする。友人関係のみならず、社会的にも大きな問題になるケースが増えており、SNS 利用時のリスクを学生にしっかりと教育していく必要があるのではないか。</li> </ul>
(6) 教育環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎年、教育のインフラを整備し、学生の学びを深めるアクティブラーニングの授業展開等を積極的に取り入れていることについて、学びやすい環境で学生が過ごせていると感じる。今後、タスクベースドカリキュラムの本格的な実施に向けて更に教育環境を充実させる必要があるだろう。</li> <li>・社会的にも IT 化が進んでいる。各自のノート PC やタブレット等を活用し、教育の IT 化を一層、推進する必要がある。</li> </ul>
(7) 学生の受入れ募集	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特に問題はない</li> </ul>
(8) 財務	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特に問題はない</li> </ul>
(9) 法令等の遵守	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特に問題はない</li> </ul>
(10) 社会貢献・地域貢献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・具体的な「地域貢献」と「地域連携」において範囲を拡大しており、社会的に役に立っているようだ。同時に学生の成長につながっていることが伺える。各種コンテンツの制作において学生の専門性を活かすと同時に、実際的な仕事の進め方を学ぶ上でも有効な取り組みであると思う。</li> </ul>
(11) 国際交流	<ul style="list-style-type: none"> <li>・IT 技術者は総じて人材不足である現状において、留学生を積極的に採用する企業が増加している。文系の大学を卒業した学生に対して、入社後に IT 教育を実施していることから、留学生に対しても高度な専門知識と技術はそれほど求めていない。社内コミュニケーションが十分にとれる日本語力の有無が重要なポイントである。</li> <li>・今年度、日本での就職を希望する留学生 14 名中 11 名が就職内定した。ほとんど非漢字圏の留学生である。留学生採用に積極的な企業の開拓、マッチング等において得たノウハウを今後も活かしていくことが必要だろう。</li> </ul>

## 学校関係者評価委員会の意見と活用状況

- ・教育課程編成委員会、あるいは学校関係者評価委員会等で連携企業者や有識者から頂戴した意見を元に IT 企業の開発現場や人材育成で活用されている実際のタスク（業務）をベースとした新カリキュラムを実施し始めている。このカリキュラムを充実させるために教員は、学生が仕事や業務内容を理解しながら技術を学ぶことが意識できるよう業種、職種、就業形態等の幅広い内容を伝える必要がある。実務経験のある教員と連携しながら各種行事内容や授業等で具体的に展開していく方策を考えることとした。
- ・専門知識と技術の習得、あるいは資格取得は従来から本校の重点課題として取り組んでいるが、その土台となる「自ら学び続ける姿勢」が社会人になってからも重要であるとの意見が多くあった。学生が受け身から、自ら新しいことを積極的に学ぼうとする意欲の向上と同時に、それを実現する学習習慣の確立等に向けて対策を検討し実施することとした。
- ・社会的なニュースとしても度々、注目される SNS を使ったトラブルについては、従来実施している内容以上に考え方を含めてゼミナールにおいて教育することとした。実施観点としては、「モラル、マナー違反」「社会的弱者を貶めるもの」「個人情報情報の漏洩」「友人間での乱暴な単語のやりとり」等とし、具体事例と結果の説明を豊富化し、全学生が安全で安心した学校生活と社会生活を送れるよう徹底する。
- ・学生に対する支援・サポート体制が充実しているという評価を継続して受けた。併せて 2020 年度から実施される高等教育の無償化についても対応していくことについて、支援対象となる学生が学びの機会を活かし、社会で活躍できるようにしっかりと支援・サポートしていくよう期待が表明された。学生一人一人の修学状況に対する見守りと適切な支援を全校的に強化し、きめ細かなサポートを実施することとした。

以上